



第3種電気主任技術者試験（電験3種）とは、電圧5ボルト未満の事業用電気工作物(出力5千キロワット以上の発電所を除く。)の工事、維持及び運用の保守の監督を行うことが出来る難関国家資格です。主に工場やビルの保守監督に従事する者が取得を目指す資格です。試験は、理論、電力、機械及び法規の4科目があり、年2回の試験で3年以内に合格する必要があります。

清・さんは、令和4年度上期に理論、令和4年度下期に電力と法規、令和5年度上期に機械に合格し、晴れて第3種電気主任技術者試験に合格しました。令和5年度上期の合格率は16.6%でした。

○清藤楓空さんからのコメント

電気科に入学したきっかけは資格が沢山取れるという漠然とした理由でしたが、先輩の取り組み、先生の声掛け、電験3種の勉強を通して自身の将来の目標が決まりました。それには、部活動（電気研究部）の先輩で、就職先の先輩でもある武内大和さん（令和3年度卒）の存在も大きかったです。武内さんも同様に本校在学中に電験3種に取り組み、合格しました。部活動の部長であった武内さんの背中を追って電験3種に取り組み、長期休暇に入ると先輩からの差し入れやアドバイスをいただき、勉強の励みになりました。

1年生の1月頃から電験3種の勉強を始め、この資格の勉強のため2年生の夏休みには自宅から1時間以上かけて登校し、9時から17時頃まで毎日学校でメリハリをつけ、集中力を保って勉強を行いました。何度もやめたいと思いましたが、先生方等の励ましと、先生方が作ってくれた昼食がとても美味しかったので続けることができました。3年生の春休み前に勉強を再開し、試験前日は先生方が願掛けにカツ丼を作ってくれました。無事合格がわかったときは、2年間の努力が報われた気がしてとても嬉しかったです。

現在は、電験3種の勉強を通して、身近な電柱や電気製品の構造や仕組みに興味を持ち、普段何気なく使用しているモノの仕組みが分かれると面白いと感じています。電気を扱う上で、取り扱いを間違えると危険な事故に繋がるので、電験で学んだ知識を活用し安全に正しく扱い、生活に欠かせない電気を安定供給し、たくさんの人の生活を守りたいと考えています。